

故 勝 木 道 夫 先生
の ご 逝 去 を 悼 む



一般社団法人日本体力医学会 常務理事
東京国際大学 教授
(元 財北陸体力科学研究所 研究部長)

碓 井 外 幸

故 勝 木 道 夫 先生

勝木道夫先生ご経歴

・略歴

昭和6年4月4日 京都市にて出生（父が京都大学で研究中、3歳で小松市に帰郷）
昭和30年 金沢大学医学部 卒業
昭和41年～ 整形外科芦城病院開設 院長
昭和43年～ リハビリテーション加賀八幡温泉病院開設（院長：中谷藤房先生）
昭和50年～ 医療法人社団勝木会設立 理事長（～平成21年）
昭和57年～ 財団法人北陸体力科学研究所開設 理事長（～平成23年）
平成13年～ やわたメディカルセンター開設（院長：勝木建一先生）
平成13年～ 芦城クリニック開設 院長（～平成25年）

・日本体力医学会

平成元年～ 北陸地方会 学会長
平成3年～ 本学会 理事（学術委員会 副委員長）（～平成10年）
平成14年～ 本学会 名誉会員
平成17年～ 北陸地方会 理事長（～平成20年）

・日本医学会

平成15年 第26回総会健康日本21 シンポジウム 座長

(他、多数の学・協会分は本文中にてご紹介し、ここでは割愛させていただきます。)

・中央官公庁（委員）

平成2年～ 厚生省健康休暇に関する検討委員会 委員
平成5年～ 厚生省健康づくりのための運動指針検討会 委員
平成7年～ 労働省勤労者リフレッシュ推進会議 委員
平成8年～ 厚生省生涯を通じた健康づくりのための身体活動のあり方検討会 委員
平成10年～ 厚生省「健康日本21」企画検討会 委員
平成14年～ 厚生労働省健康づくり事業モデル検討会 委員

・石川県（公職）

平成7年～ 石川県教育委員会 委員〔委員長代行（H8～H15）〕
平成17年～ 「いしかわ健康づくり21」検討会 メンバー（～平成18年）
平成18年～ いしかわ健康フロンティア戦略推進会議 委員（～平成25年）

勝木道夫先生（以後、勝木先生または先生）は、先生が設立されました（特定医療法人社団勝木会）やわたメディカルセンターにて、2019（平成31）年1月21日（月）の早朝、享年87歳にてご逝去なさいました。昨年まで、先生が詠まれた俳句や川柳とともに、近況報告を兼ねた年賀状を頂き、お元気で何よりと思っていましたが、突然の訃報に接し、ただ驚くばかりです。ここに先生のご功績と私が関与しました幾つかのエピソードをご紹介します。心からご冥福をお祈りする次第です。

まず初めに、勝木先生がご活躍された分野はとても広く、数ページの紙面でご紹介することは不可能ですので、この追悼文は、（一社）日本体力医学会とその関連学・協会での専門分野のものに限らせて頂きますことを、お許しください。

勝木先生は、昭和41年に整形外科芦城病院を開業以来50年以上にも及ぶ長い間、医師（整形外科医、リハビリテーション科医、リウマチ科医、温泉療法医、温泉専門医、他）として、地域医療に真摯に取り組まれ、患者様にやさしく向き合われただけでなく、医科学者としても数多くの学・協会（日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本温泉気候物理医学会、日本体力医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本ウエルネス学会、日本温泉療法医会、日本体育協会、NPO法人ウエルネス協会、NPO法人ライフケア協会、小松市体育協会、他、順不同）で会長、理事長、評議員、大会長などの要職を担われ貢献してこられました。本学会におきましても、理事として、1991（平成3）年4月1日～1997（平成9）年3月31日の2期をお務めになり、その後、2003（平成15）年4月1日に名誉会員になられ、高所大所から理事会に貴重なご意見を賜りました。また、学会委員としても、学術委員会副委員長を1991（平成3）年4月1日～1997（平成9）年3月31日、財務委員と評議員選考委員を1994（平成6）年4月1日～1997（平成9）年3月31日もの長きに亘り歴任されただけでなく、1988（平成元年）年12月に、北陸3県（富山県、石川県、福井県）の主な会員を发起人として、日本体力医学会北陸地方会（学会長：勝木道夫、事務局：財北陸体力科学研究所内）を、関東地方会、近畿地方会、中国・四国地方会について、全国で4番目に立ち上げられるなど、学会運営に多大な貢献をされました。日本体力医学会名誉健康科学アドバイザー（H-0028）の称号も授与されています。さらに、学・協会の大会では、第46回日本体力医学会石川大会副大会長〔1991（平成3）年10月1～3日、金沢市、小松市、七尾市〕、第4回日本ウエルネス学会大会大会長〔2007（平成19）年9月24日、小松市〕、第65回日本温泉気候物理医学会大会大会長〔2000（平成12）年9月24日、小松市〕、他に就任され、各学会の発展に貢献されました。その他、勝木先生が設立された日本ウエルネス学会大会〔2004（平成16）年9月12日、東京YMCA東陽町センター〕では、初代会長として、設立記念講演「テーマ：時代はウエルネス～その研究と実践～」をされ、好評を博しました。

全国的な国策に関与する委員としては、厚生労働省

の健康増進対策としての「健康日本21」の企画検討会委員〔1998（平成10）年〕の立場で、日本の将来における健康増進のあり方を提唱され、「第三次国民健康づくり対策」として活かされてきました。

勝木先生は、大学卒業後は生活の大部分を医業に専念されましたが、大阪大学での学生時代に、「万葉集」研究の第一人者で文化功労者として著名な犬養孝教授の御講義に触発され、俳句と川柳に目覚められたそうです。その影響はご卒業後も生涯に亘って続き、これまでに医業の合間をぬって詠まれた作品を全国的な句会に投句され、数多くが優秀作品として表彰されております。数年前には、自らの句集も出版されました。「初風や米寿の年の目覚めかな」、「遠雷や弁慶像も身構えて」、また、同じく大阪大学とその後の金沢大学の学生時代にも、旧制石川県立小松中学、旧制第四高等学校（四高・しこう）から継続されてきた硬式テニスで、“勝木流必勝作戦”を立案され、それにより“西医体（西日本医科学学生総合体育大会）”での決勝進出や“大学対抗戦”で勝ち進まれた方法を、私が（試験研究法人）北陸体力科学研究所（Hokuriku Institute of Wellness and Sports Science）（後に財団法人、現在は特定公益増進法人）（※）に就職させて頂いた頃に、極めて論理的に伝授して頂きました。この時、勝木先生は勉強だけでなく、スポーツも一流であることを知りました。まさに「文武両道」を地で行く、勝木先生の多彩な能力に驚くばかりでした。

（※）設立記念日：1982（昭和57）年12月21日、落成記念日：1984（昭和59）年5月20日、認可：石川県教育委員会、認定：厚生労働大臣認定 健康増進施設（第89024号）〔H2.3.2〕、厚生労働省 指定運動療法施設（第0001号）〔H4.11.12〕

勝木先生の主な受賞や採択された体力・医科学関連研究事業、著書・論文などは以下の通りです。

主な受賞

- 2000（平成12）年
厚生大臣表彰（国民健康保険審査委員）
- 2003（平成15）年
小松市文化賞受賞
（市民の健康づくり、スポーツ科学の振興）
- 2004（平成16）年
文部科学大臣表彰（地方教育行政功労者）
- 2005（平成17）年
環境大臣表彰（温泉関係功労者）
- 他、多数（割愛させていただきます。）

採択された主な体力・医科学関連研究事業

- 平成11年～13年（1999年～2001年）度
厚生労働省 個別健康教育（支援）モデル事業（小松市、財北陸体力科学研究所）
- 平成14年～16年（2002年～2004年）度
厚生労働省 国保ヘルスアップモデル事業（全国数ヶ所の市町村モデル地区）
- 平成10年～平成12年（1998年～2000年）度
「保険者の展開する健康・体力増進事業効果の特徴と改善点に関する研究」

厚生労働省研究事業 厚生労働科学研究費補助金
(厚生科研費) (財北陸体力科学研究所)

○平成17年～平成19年(2005年～2007年)度
「公衆浴場を利用した安全で有効な健康づくりに
関する研究」

厚生労働省研究事業 厚生労働科学研究費補助金
(厚生科研費) (財北陸体力科学研究所)

○他, 多数(割愛させていただきます。)

主な著書・論文

○疲労と休養, スポーツ医科学, 353-379, 1999 杏林
書院

○地域医療と温泉治療法(The Role of Spa Health
Resort Therapy in Community Based Medicine,
日本温泉気候物理医学会雑誌, 64(1), 3-5, 2000-11

○他, 多数(割愛させていただきます。)

勝木先生は, 上述のように, 本学会において理事会
や各種委員会を通じて, 研究者の育成にご尽力された
ことは, 会員の誰もが熟知するところでありますが,
私個人との関係におきましても, (財北陸体力科学研究
の理事長と主任研究員(後に研究部長)として, その
後も本学会を通じて約36年間〔1983(昭和58)年4月
～2019(平成31)年1月〕も, 公私に亘り温かいご指
導を受けてきました。

勝木先生が医師として, またスポーツ医科学者とし
て, スポーツに深く関与されたものは沢山ありますが,
私の記憶に鮮明に残っているエピソードを厳選して二
つだけご紹介しますので, 皆様の心に留めて頂ければ,
幸いです。

一つ目は, 勝木先生の母校である石川県立小松高等
学校(旧制石川県立小松中学)の硬式野球部の件です。
(財北陸体力科学研究所がオープンして, 軌道に乗り始
めた1986年(昭和61年)のことです。初出場した第
68回全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園)では,
初戦(8月13日 第1試合)に四国の強豪校・高知商
業(最終的に準々決勝まで進出)と対戦し, 延長11回,
4-3で惜敗したものの, 石川県内屈指の進学校とし
て有名な県立の伝統校が, 石川県大会を勝ち抜き, 甲
子園の本番でも, 終盤まで0-0と緊迫した展開に持
ち込んだ大健闘ぶりに対して, 主催の朝日新聞社が全
国版の紙上で“破れたものの勝利に等しいスポーツ医
科学の成果”として称えてくれました。実は, この大
会のレギュラー選手の殆どが3年生であり, スポーツ
で鍛えられた精神と体力を十分に発揮し, 甲子園後の
受験勉強でも頑張り, 全員が第一希望の国公立大学に
進学するといった快挙もやってくれました。この際の
勝木先生は, 甲子園予選としての県大会中には, 整形
外科医として選手たちの傷害に対応した治療・リハビ
リを担当されただけでなく, 基礎体力作りのための運
動処方やスポーツ栄養, 日々の生活にも持論を展開さ
れ, 選手の保護者達が進学のための勉強時間も確保し
なければならないとの理由で許容する, 僅か1日2時
間の効率的な練習でしっかり成果を出すことに成功さ
れました。このことに関しては, 地元紙の北陸中日新
聞が, 「社社に参拝し必勝祈願のご利益(神頼み)に

縋(すが)る学校と科学的トレーニングをする学校」
と対比し, 世間の関心を煽る形で特集を組み, 県
内のスポーツ関係者に“何れが勝つか?!”と, 大き
な話題を提供しました。県立小松高校は, 当然, 科
学的トレーニングをする県内唯一の学校であり, そ
の結果は, 今考えると夢のようですが, 連戦連勝し
優勝してしまいました。神様も“スポーツへの医科
学の有効活用”といった新しい時代の息吹を感じつ
つ必死の努力も認められ, この時だけは譲って下
さったのかもしれませんが! 甲子園に乗り込んでから
も, 県外の他校の選手たちが, 験担ぎ(げんかつぎ)
で, 試合前日にトンカツ(敵に勝つ)やステーキを
食する(敵を食う)のを尻目に, 選手の体調管理に
「スポーツ栄養」の理論を徹底し, その意味でも全
国的に高い関心が寄せられました。

二つ目は, (財北陸体力科学研究所開設当初からの,
プロ野球選手やプロゴルファー, オリンピック・世
界選手権出場選手をはじめとする世界の一流選手に
対する医科学的サポートです。プロ野球選手として
は, 当時の近鉄バファローズの1軍選手達, 例えば
捕手でスラッガーの梨田昌孝選手(後に, 監督, 野球
解説者, 野球評論家)や投手の野茂英雄選手(「トル
ネード投法」で三振を量産し, NPBとMLBで活躍,
後に, サンディエゴ・パドレスのアドバイザー), 吉
井理人選手(NPBとMLBで活躍, 後に, 野球解説者,
日本ハムコーチ)などが毎オフに来て, 勝木先生を
はじめ, 医師, 体力科学研究員, 管理栄養士, 理学
療法士, 運動指導委員などのサポート(健康・体力
診断とリハビリ, 運動指導, 他)を受け, 勝木先生の
一言, 一言の重みの有る言葉に, 皆, 耳を傾け, 頷
いていたのが印象的でした。特に, 野茂選手に関し
ては, アメリカ大リーグでノーヒット・ノーランの
完全試合を達成し, 新人王を受賞した際に, その
ニュースを聞いて大変喜んだ場所が, この(財北陸体
力科学研究所でした。

勝木先生にまつわるご紹介したいエピソードは枚
挙に遑がありませんので, 他は割愛させていただきます。

最後になりますが, 健康増進・体力向上, スポー
ツ医科学などに関する業務や研究だけでなく, 生活
全般を通じて公私に亘りご指導を受けた多くの方々
の心の中に, 勝木道夫先生とその教えは, いつまで
も, 生き続け, 残ることでしょう。

勝木道夫先生, 今まで, 大きな心で包み込み, やさ
しくご指導頂き, 感謝の気持ちしかありません。
本当にありがとうございました。心から哀悼の意を
表します。安らかに眠りください。 合掌

なお, 追悼文作成には, 勝木道夫先生のご長男で
ある勝木保夫先生(勝木グループ代表, 特定医療法
人社団勝木会理事長, 公益財団法人北陸体力科学研
究所理事長), ご二男の勝木達夫先生(特定医療法
人社団勝木会やわたメディカルセンター院長)他,
勝木先生関連の多くの方々から, ご助言を頂きました。
謹んで, 感謝申し上げます。

一般社団法人日本体力医学会評議員申請要項

評議員に申請をされたい方は申請書類を評議員会開催2ヶ月前までにご提出下さい。

I. 申請資格について

下記、**評議員選考内規**をご参照下さい。

◎日本体力医学会評議員選考委員会評議員選考内規

昭和62年10月7日改定
平成6年11月18日改定
平成24年7月20日改定
平成28年8月26日改定

1. 評議員候補者は、7年以上継続した正会員歴を有していなければならない。
2. 評議員候補者は、7年以上の研究歴を有し、体力医学、運動生理学、スポーツ医学などに関する十分な研究業績の著書、原著論文などの業績発表を有していなければならない。
3. 評議員候補者は、評議員3名の推薦をうけて、入会年月日を明記した履歴書および業績目録を添えて、評議員会開催2カ月前迄に評議員選考委員会に申請しなければならない。
4. 日本体力医学会の学会運営に必要と認められるものは、必ずしも上記条件を満たしていなくとも評議員選考委員会の議を経て、その推薦により評議員候補者となることができる。
5. 評議員選考委員会は、推薦された評議員候補者を審議し、評議員の資格を有すると認められたものを、理事会へ報告し、評議員会に推薦する。

付 則

1. 体力医学に関係する領域の学会で評議員を務めるかこの領域で博士の学位を取得しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
2. 日本体力医学会より授与された日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を有しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
3. 研究業績については、原則として、体力医学に関係する原著論文（審査を受けた学術論文の筆頭著者）が5編以上あることを基準として、評議員選考委員会で審議する。
4. 申請書類の送付先は 学会支援機構内 一般社団法人日本体力医学会評議員選考委員会とする。

II. 申請手続きについて

下記書類をHPの評議員申請(<http://www.jspfsm.umin.ne.jp/councilor/index.htm>)からダウンロードの上、ご記入・ご提出下さい。

- 1) 評議員推薦書（評議員3名の署名・捺印が必要です）
- 2) 履歴書
- 3) 研究業績

*評議員選考内規に従って申請資格（I）を満たしていると思われる候補者については、申請手続きに必要な各書類（II）を締め切りまでに郵送してください。

但し、書類の記載方法に不備が見られる場合には審査不能として返却する場合がありますので、必ず記載手順を遵守して作成し期限までに提出してください。

III. 承認までの流れについて

- ① 評議員会開催2ヶ月前（7月中旬頃）までに申請書類を提出いただく。
- ② 提出期間満了後に評議員選考委員会で確認・選考を行う。
- ③ 9月理事会および評議員会総会において報告・承認を行う。

■申請書提出先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル4階
学会支援機構内
一般社団法人日本体力医学会評議員選考委員会
Tel：03-5981-6015（学会専用） Fax：03-5981-6012（学会支援機構）
E-mail：jsofsm@asas-mail.jp

評議員選考委員長 大野 誠

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2018年11月）議事録

日 時：2018年11月16日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭、永富良一各副理事長、

碓井外幸常務理事、宇高 潤、小野寺昇、

川原 貴、栗原 敏、後藤勝正、坂本静男、

下光輝一、須田和裕、須永美歌子、武政 徹、

成田和穂、前田清司、和気秀文各理事、

清田 寛、小林康孝、定本朋子各監事

欠席者：大野 誠、勝村俊仁、竹森 重、田中喜代次、

田畑 泉、浜岡隆文、宮川俊平各理事、

井上 茂監事、戎 利光第73回大会長、

徳田修司第75回大会長

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認することとした。

2. 罰則規定制定の件（鈴木理事長）

2018年7月に診療放射線技師法違反容疑（本学会理事関与）に関する調査委員会が立ちあげられたことに鑑み、倫理委員会において罰則規定を作成することが提案され、作成後に理事会で審議することとなった。

3. 会費納入自動引き落とし方式採用の可否の件（武政総務委員長、事務局）

配布資料に基づき、事務局より会費納入自動引き落とし方式について、過去の経緯、現状が報告された。会費納入自動引き落とし方式について、2015年11月20日の理事会において会費収納オプションとして提案されたが、会費納入自動引き落とし方式の導入費用やメリット・デメリットを考慮し、当時採用していた会費納入方法の郵便振替に加え、クレジットカード決済のオプションを加えることが承認された経緯がある旨、報告された。また、過去には、学会支援機構に事務委託している学会で会費納入自動引き落とし方式を採用している学会があったが、費用や会費納入率を考慮した際に会費納入自動引き落とし方式にメリットを感じられず、会費納入自動引き落とし方式を採用しなくなり、現在では会費納入自動引き落とし方式を採用している学会はない旨、報告された。なお、オンライン上で手続き可能な金融機関等、カード決済で継続処理できる収納代行会社が出てきていることから、今後、会費納入自動引き落とし方式を採用できる可能性はあるが、現状では会費納入自動引き落とし方式は採用していない旨の報告があった。本理事会においても、2015年11月20日の理事会において配布された説明資料に基づいて、会費納入自動引き落とし方式に関するメリット・デメリットが報告された。結論として、デメリットとして挙げられる、学会支援機構が会員の銀行の印影と口座の管理を行うことについて、個人情

報の厳重な管理が求められることから困難であることや、会費納入率を上げるためには学会年次大会において会費未納者リストを掲示する方法もあること、3回目の請求書を発行する際に督促状を同封していることを鑑み、これまで通りの会費収納方法である郵便振替、クレジットカード決済で継続運用することが提案され、承認された。

4. 選挙管理委員会について

（西平選挙管理委員会業務執行役）

配布資料に基づき、選挙管理委員会の構成が提示され、承認された。

委員長：前田清司（筑波大学）

委員：西平賀昭（筑波大学）

委員：須田和裕（東京工業大学）

5. 役員選挙日程について（事務局）

配布資料に基づき、2019年に行われる選挙日程について報告がなされた。

理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等に関わる定款、定款施行細則の改定と役員を選出に関する規程の改定に伴い、次回選挙から「理事・評議員会長・監事」、「理事長・副理事長・常務理事」の選挙を同時に行うことが確認された。監事は理事・評議員会長を兼職できないため、両方に当選した際の確認や、定款、定款施行細則の変更と役員を選出に関する規程の改定後、初めての選挙となることを考慮し、「理事・評議員会長・監事」選挙開票後から内諾期間を一ヶ月間設けていると説明があり、2019年の選挙日程について承認された。

6. 日本体力医学会健康科学アドバイザー®新規申請者（追加）について（碓井称号委員長）

配布資料に基づき、日本体力医学会健康科学アドバイザー®の新規申請者8名の氏名リストが提示され、承認された。

7. シニア会員新規申請者について（武政総務委員長）

・2019年度日本体力医学会シニア会員新規申請者リストについて

配布資料に基づき、日本体力医学会シニア会員新規申請者1名の氏名リストが提示され、承認された。また、今後は理事会の都度、氏名リストを提示し承認するのではなく、事務局にシニア会員への会員種別変更届が提出され、シニア会員としての条件を満たしていれば、シニア会員として認めることが提案され、承認された。

・シニア会員対象者への通知方法について

配布資料に基づき、シニア会員対象者への「シニア会員のご案内」の通知方法について、シニア会員対象者へメールまたは郵送にて連絡を行うとともに、シニア会員対象者へ通知した旨を学会ホームページに掲載することが提案され、承認された。

8. その他

- ・神戸宣言2018について（鈴木理事長）
配布資料に基づき、日本医学会連合「領域横断的肥満症ワーキンググループ」（23学会）に参加し、2018年10月7-8日に神戸にて開催された第39回日本肥満学会で宣言された「神戸宣言2018」について、肥満症の撲滅を目指し、日本医学会連合の中で肥満症と関連する23学会が領域を超えて協働する趣旨である旨、報告された。また、肥満症の治療には、食事療法と運動療法が中心であるが、現在の医学教育において、運動処方や運動療法の基礎となる運動生理学などは全く教授されていない。本学会ではスポーツ医学研修会や学術刊行物の出版を通して、医師・看護師、その他の医療従事者を含めた運動指導者の育成に尽力していく旨、報告された。
- ・健康寿命延伸に寄与する体力医学（仮題）について（鈴木理事長）
配布資料に基づき、「週刊医学のあゆみ」編集部より本学会に“週刊医学のあゆみ”連載企画（3月から掲載開始）の打診があった旨報告され、これまでの本学会年次大会において特別講演、教育講演、シンポジウム等で発表された内容を中心として「健康寿命延伸に寄与するスポーツ医学（仮題）」と題して編集・構成し、医歯薬出版に報告したことに加え、本学会の存在を臨床系を含め、広く医学会にアピールしていきたい旨、意見が述べられた。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

- ・編集委員会（後藤副委員長）
 - ◎JPFISM投稿規定 [Letters to the Editor] 文言追記 (2018.10.22)
 - ◎投稿状況 (2018.9.1~11.5)
投稿状況について、件数の伸び悩みが見受けられる旨、報告された。また、昨年のJPFISM、体力科学を合わせた投稿数は86編であるが、本学会理事が関わっているものは20編にも及んでいない状況なので、本学会理事宛てに改めて投稿依頼がなされた。
 - 1) JPFISM 新規受付8件（前年14件）
 - 2) 体力科学 新規受付10件（前年11件）
 - ◎発行予定
 - 1) 「JPFISM」誌
【Vol. 7, No. 6 (2018年11月25日発行)】
Proceedings 568編
 - 2) 「体力科学」誌
【Vol. 67, No. 6 (2018年12月1日発行)】
原著6編
 - ◎その他
11月6日に日本医師会館にて開催された第2回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムについて、概要として日本医学会が国際医学編集者会議の定める組織COI（iCOI）およびJCMJE Recommendationsに準拠する形で今後は進められる。特に利益相反について厳しい対応が求められる旨や、日本医学会医学雑誌編集ガイドラインについても利益相反、研究不正について改訂される予定であり、ICMJE Recommendationとの整合性が図られる旨、報告された。これらを受けて本学会としても、投稿規定が厳格になる方向である旨、報告された。また、本会議の報告書は事務局で保管していると報告された。

・渉外委員会（永富委員長）

◎国際交流事業

第75回日本体力医学会大会（鹿児島）における国際交流事業

2020年の国際シンポジウム提案について、11月15日の締め切り時点で2件応募があり、1件を採択した旨、報告された。

◎国内関連学術団体との交流・連携（須田日本スポーツ体育健康科学学術連合運営委員）

東京オリンピック・パラリンピック関連学会への協力

配布資料に基づき、2020横浜スポーツ学術会議において、基調講演、シンポジウムについて提案があれば、11月21日(水)までにテーマ、趣旨、講師を事務局に連絡するよう依頼がなされた。

名称：2020横浜スポーツ学術会議（横浜2020）

会期：（国際会議の開催予定日）

2020年9月8日(火)～12日(土)

会場：パシフィコ横浜ノース

（横浜国際平和会議場）

テーマ：CONTRIBUTING TO A SUSTAINABLE WORLD

・FAOPS2019（第9回アジア-オセアニア生理学会大会）運営委員会（和気委員長）

◎一般演題参加登録について

FAOPS2019の一般演題参加登録が10月9日正午をもって終了し、本学会において積極的に周知を図ってきたこともあり、一般演題応募数1116題（国内752題、国外364題）と、当初目標1000題を超える応募があった。

◎事前参加登録について

11月1日-12月20日 Regular 30,000円

（大学院生 20,000円、学部生 10,000円）

12月21日-2月28日 Late 35,000円

（大学院生 25,000円、学部生 10,000円）

当日参加費 40,000円

（大学院生 30,000円、学部生 15,000円）

◎日本体力医学会・日本生理学会合同企画シンポジウム等について

引き続き準備を行っていく旨、報告された。

2. 第73回（福井）大会の報告

（福井大会関係者の欠席により鈴木理事長が代読）

配布資料に基づき、以下の事項について報告がなされた。

◎一般演題数

口頭発表 318演題

ポスター 421演題

計 739演題（内、当日取下げ演題25演題含む）

◎参加者数

有料参加者数 1,563名

※事前登録者で、当日災害等により参加できなかった方も含む

1) 事前登録者数

学会員（一般） 635名

学会員（学生） 241名

非学会員（一般） 41名

非学会員（学生） 33名 計 950名

2) 当日大会参加者数

学会会員・一般／非会員・一般 442名

学会会員・学生／非会員・学生 171名

計 613名

3) その他参加者

企業展示関係者 約100名（35社：書籍展示含む）

運営スタッフ 80名

招待者 約20名

◎広告

予稿集広告 12社／団体

HPバナー 1団体

◎単位認定者数

健康運動指導士 152名

実践指導者 18名 計 170名

◎収支決算

支払いを済ませ、公認会計士の監査を受けているところである。監査終了後、次回理事会で大会の収支報告をする予定である。

3. 第74回（茨城）大会の進捗状況

（前田第74回大会事務局長）

配布資料に基づき、以下の事項について報告がなされた。

会 期：2019年9月19日（木）～21日（土）

会 場：つくば国際会議場

テーマ：元気な人と社会を育むスポーツ医科学の挑戦

参加者数（見込み）：3,000人

◎大会の進捗状況

1) 2018年10月末時点（主な事項）

①組織委員会の設置

②POC業者の選定と決定（JTB）

③大会会場の決定（つくば国際会議場）

④大会テーマの決定

⑤ポスター・チラシ作成（第73回日本体力医学会にて公開・配布）

⑥開催趣意書作成

⑦協賛企業の募集開始

◎2018年11月以降（主な事項）

1) 大会プログラム構成の検討

2) 学会ホームページの開設準備

3) 協賛企業の募集（継続）

4. 第75回（鹿児島）大会の進捗状況（鈴木理事長）

大会の進捗状況について、現在、学会大会事務管理運営代行の業者選定を行なっている旨、報告された。

会 期：2020年9月24日（木）～26日（土）

会 場：鹿児島大学（共通教育センター、稲盛会館）

5. その他（前田編集委員長代理）

11月6日に日本医師会館にて開催されたアメリカ医師会（AMA）・日本医師会（JMA）共同シンポジウムについて、JAMA編集長らがJAMAの歴史、現状、Network Openの目的、投稿論文を増やす戦略などについて講演がなされ、利益相反、データの捏造と改ざん、盗用の問題などについて注意喚起があった旨、報告された。

第30回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内（第2報）

日本体力医学会学術委員会主催の本研修会は基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。実習は救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、傷害予防・機能回復の筋力トレーニングおよびテーピングなどです。アスリートを対象とした研修内容ではありませんのでご注意ください。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受けることができます。

称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会非会員の方も参加できます。また、他の研修会を受講し、資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

尚、実習を行う関係上、各年度の参加人数に制限がありますことをご了承下さい。

平成30年11月10日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

中里浩一 岡本孝信 須永美歌子 進藤大典 太田 眞 蕪木智子 清水智美 宇高 潤

1. 会 場

日本体育大学東京世田谷キャンパス、各教室および中央測定室など

2. 日時および研修内容

(I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。

2019年6月29日(土)

| | |
|-------------|--------------------------------------|
| 9:00~10:40 | オリエンテーション、有疾患に対する運動療法の考え方（含COPD, 腎症） |
| 10:40~10:50 | 休 憩 |
| 10:50~11:50 | 高次脳機能と運動 - 認知症予防のための運動など- |
| 11:50~12:50 | 筋骨格系組織と運動 - 寝たきり予防のための運動など- |
| 12:50~13:50 | 昼 食・休 憩 |
| 13:50~14:50 | 循環と運動 |
| 14:50~15:50 | 幼児期および成長期における運動指導について |
| 15:50~16:00 | 休 憩 |
| 16:00~17:00 | 運動, 栄養, 生活習慣病予防について |

懇親会（会費3000円, 参加自由）

2019年6月30日(日)

| | |
|-------------|--------------------------|
| 9:00~10:30 | 運動処方の基礎 |
| 10:30~10:40 | 休 憩 |
| 10:40~12:10 | 運動器疾患に対する運動療法 |
| 12:10~13:10 | 休 憩 |
| 13:10~14:40 | 心血管系疾患の運動処方および服薬者の運動時注意点 |
| 14:40~14:50 | 休 憩 |
| 14:50~16:20 | メタボリックシンドロームに対する運動療法 |

(II) 応用コース

基本的な運動指導の実際について学びます。実習では自転車エルゴメータによる運動負荷試験をもとに運動処方を作成します。また、呼吸機能検査、体組成測定法、テーピングや筋力トレーニング実習も行います。

2019年8月2日(金)

- 9:00~12:00 運動処方実習 (a) (トレッドミルおよび自転車エルゴメータを利用した運動負荷試験, 心電図記録, 呼吸機能検査, 乳酸測定など)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- 13:00~17:00 運動処方実習 (b), 尿検査, 体組成測定, 筋力/筋パワー測定など

2019年8月3日(土)

- 9:00~12:00 運動処方の実際 (前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被験者の運動処方を作成し, 実施する)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- 13:00~17:00 スポーツ傷害予防実習 (テーピング, 筋力/筋パワートレーニング, 救命救急実習)

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は、所定の修了試験を受験することができます。修了試験は2019年8月4日(日) 10:00~12:00に日本体育大学東京世田谷キャンパスで行います。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また、修了試験合格後、所定の手続きを経て、日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号を取得することができます。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集(正解/解説付)」(税込:2,000円)がありますので、是非ご利用下さい。下記の「9. 申込書送付先および問い合わせ先」へお申込み下さい。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し、それに準じて講義が行われます。また、プレゼンテーション資料も必要に応じて当日配布致します。

5. 受講料

受講料は(I)基礎コース、(II)応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円、単科コース(基礎コース、応用コースの各コースを単独受講)を受講する場合はそれぞれ25,000円(2日間コース)です。2コースの受講を原則としますが、定員に余裕があれば、単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば、全コース受講後修了試験を受験することができます。尚、学生受講者は30,000円(基礎・応用コース)と致します。ただし学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが、2コース受講後に行われる修了試験に合格し「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。

定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位(60分1単位)について、基礎コースでは講義11.5単位、応用コースでは講義0.3単位および実習12.7単位がそれぞれ認定される予定です(2019年4月申請予定)。ま

た、THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）のレベルアップ研修における基礎コース5単位、応用コース5単位が認定される予定です（2019年4月申請予定）。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので、要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込み下さい。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承下さい。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

※本学会ホームページの“お知らせ”にある、「スポーツ医学研修会」および「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」を確認し、手続きの参考にして下さい。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13ユニゾ小石川アーバンビル4F
 一般社団法人 学会支援機構内
 日本体力医学会スポーツ医学研修会 係
 電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012
 E-mail：jspfsm@asas-mail.jp

第30回日本体力医学会スポーツ医学研修会仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申し込みます。（該当する□にレ印をつけて下さい。）

第30回 基礎コース

第30回 応用コース

試 験

氏 名 _____

連絡先 〒 _____

TEL： _____ E-Mail： _____

編 集 後 記

「体力科学」第68巻2号をお届けいたします。本号には、原著論文5編、資料1編が掲載されています。いずれの論文も体力科学に関連する興味深い内容になります。論文を投稿いただきました先生方に感謝申し上げます。また、学会員の先生方から多くの論文投稿をお待ちしております。

今年の秋にはラグビーワールドカップ2019が日本で開催されます。ラグビーワールドカップといえば、4年前のイングランド大会で、日本代表が過去2度の優勝を誇る南アフリカから劇的な逆転勝利を収めたことを思い出す先生も多いことでしょう。当時の世界ランキングは、南アフリカ3位に対して、日本は13位で、格上の優勝候補を相手に日本は鮮やかな逆転勝利をあげました。これは、スポーツの歴史に残る勝利と言っても過言ではないでしょう。このような熾烈な戦いや劇的な勝利は、スポーツの世界だけでなく、研究の世界にも存在します。現在では、血管を拡張させて、血流調節などに関与することが明らかになっているNO（一酸化窒素）の発見に関する研究もその一つです。1980年にアメリカのFurchgott博士は血管の内膜に存在する血管内皮細胞から未知の血管拡張物質が放出されることを発見し、大きな話題になりました。その後、1986年にアメリカのIgnarro博士がこの未知の血管拡張物質はNOであることを国際学会で提唱し、その翌年にProc Natl Acad Sci誌に発表しました。一方、1987年にはイギリスのMoncada博士もこの血管拡張物質はNOであることをIgnarro博士とは異なった方法を用いて証明し、Nature誌に発表しました。

ほぼ同時期にアメリカとイギリスの研究者により、血管内皮細胞が産生する未知の血管拡張物質はNOであることがそれぞれ発表されたのです。この一連のNO研究により、1998年にノーベル生理学・医学賞が、Murad博士、Ignarro博士、Furchgott博士の3博士に授与されました。お気付きの先生もいらっしゃると思いますが、3名のノーベル賞受賞者にイギリスのMoncada博士は選ばれませんでした。このように、研究の世界でもスポーツと同様に熾烈な競争や劇的な勝利があるのです。今も、日本中、世界中で研究の劇的な勝利を目指して、熾烈な競争が行われていることでしょう。このような競争は、科学の発展のためには当然のことなのかもしれません。研究者間で切磋琢磨し合うことで、体力科学のさらなる発展を期待したいと思います。

ラグビーワールドカップ2019の開催と時を同じくして、第74回日本体力医学会大会（2019年9月19日～21日）が私の勤務地（筑波大学）である茨城県つくば市で開催されます。「元気な人と社会を育むスポーツ医学の挑戦」を大会テーマに掲げ、田中喜代次大会長（筑波大学名誉教授）の下、鋭意準備が進められています。つくばの地に、多くの学会員の先生方が集まり、体力科学のさらなる発展について活発な議論ができれば幸いです。是非とも、第74回日本体力医学会大会にご参加いただき、実りある学会大会になりますようご協力をお願い申し上げます。

前田清司

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.68, No.2

体 力 科 学 第 68 巻 第 2 号

平成31年3月25日 印刷

平成31年4月1日 発行

編集兼発行者
発行所

田中喜代次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編集事務局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社
